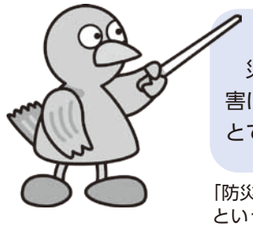


防災とは

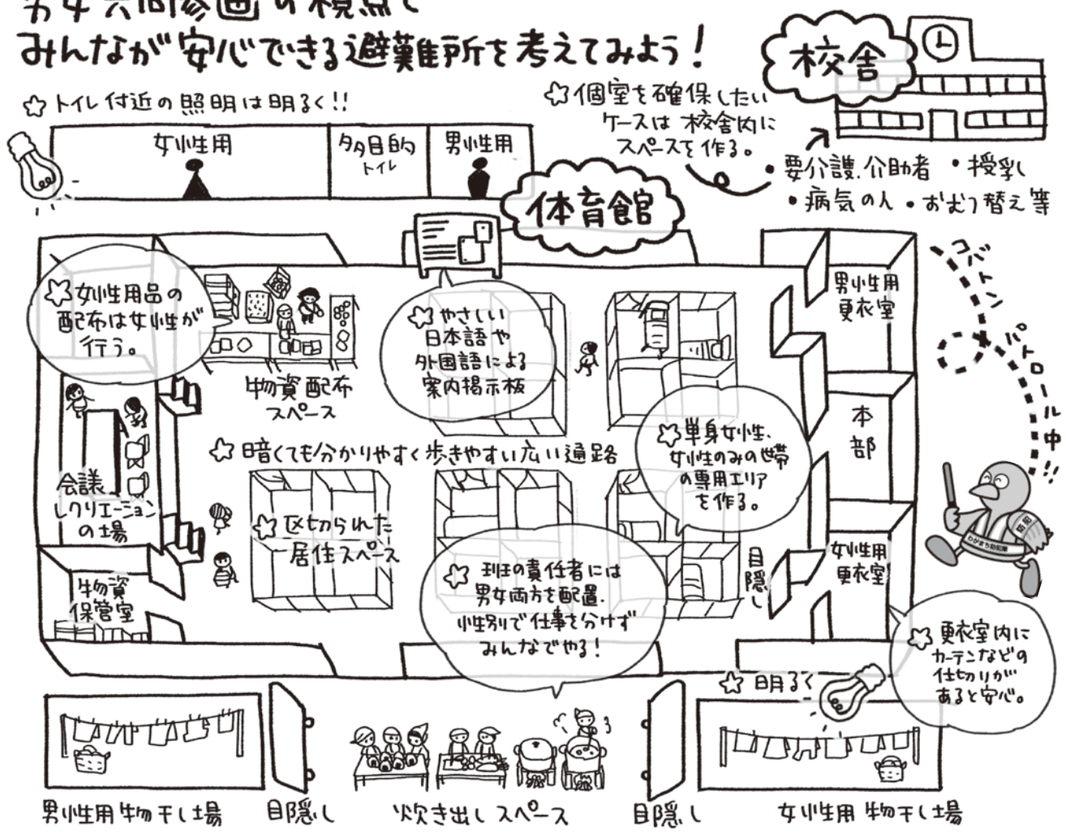
災害を「防ぐ」と書くように、災害による被害を防ぐための取組のことです。

減災とは

ある程度の被害の発生を想定したうえで、その被害をできるだけ小さくするための取組のことです。

「防災・減災についてもっと知りたい！」「防災リーダーや防災士資格取得に興味がある！」というかたは、安心安全課にお問い合わせください。

問合せ　安心安全課防災担当　内線 373



これからの避難所のあり方…スフィア基準を知っていますか？

アフリカ・ルワンダの難民キャンプで多くの人が亡くなったことを受けて、国際赤十字などが1998年に作成し、日本では避難所運営ガイドラインの中で参考にすべき国際基準とされています。

基本指標の中では「一人当たりのスペースは最低、畳約2枚分」「トイレは20人に１つ、女性用トイレは男性用の3倍必要」「1人1日最低15Lの水が必要」…等と言われています。

編集後記

WithYou さいたま「男女共同参画で取り組む防災フォーラム」で防災と減災について学び、「顔の見える関係、それがいちばんの防災」という言葉がとても胸に残りました。年齢性別を問わず、みんなでともに支え合う地域づくりがたいせつです。遠くの親戚より近くの他人、まさにこの故事が地域防災の鍵となるのではないでしょうか。

しらおか男女共生広報紙編集委員会委員　佐々木由規子　廣瀬花子　和田紀子

問合せ　地域振興課人権担当　内線 385

男女共同参画情報ページ　Vol.45

ハーブティ

～女と男をかんがえる～　ハーブティ：「ハーブ（herb）」は薬草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使います。これが心と体にバランスのとれたよい刺激を与えることから、女と男も互いにバランスのとれたよい関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークも広がれば…という願いがこめられています。

男女共同参画の視点で考える
災害時の避難所のこと

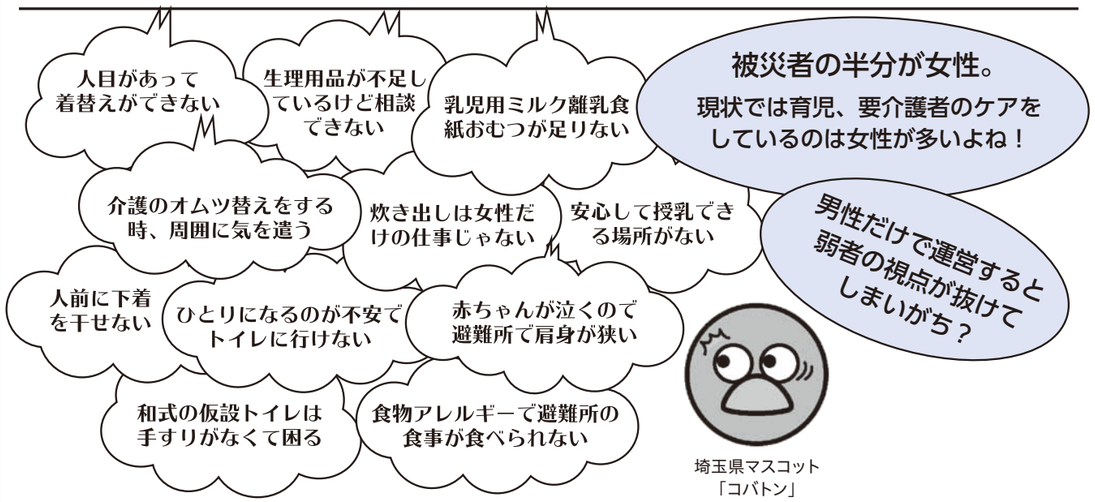
私たちの住む地域には多様な人たちが暮らしています。災害が起きたとき、抱える困難は一人一人違います。避難所での困難や生きづらさを減らすためには、多様性に配慮した避難所運営が必要になると考えられます。

特別なニーズを持つ人がいることを知っていますか？

このようなかたがたは、普段から支援を必要としています。

高齢者　障がい者　妊産婦・乳幼児　性的マイノリティのかた
難病…アレルギー疾患その他の慢性疾患　外国語を母語とするかた

過去の災害時の避難所での問題点



埼玉県マスコット「コバトン」

避難所運営に積極的に女性が参加することで、多様な視点が加わり、いろいろなニーズへの配慮ができるようになります。

多様性への配慮こそ、避難所での減災の近道となります。